

1 a 利息  
b 対価  
c 批判

2 (記述題)  
3 I 小口で生活の仕事に  
(順不同・完答)

3 II 自分の好  
4 「再読  
5 I 客観的に

5 II 数値化し  
6 A か B 巻 C ま D 波  
7 (記述題)  
(B ひらがなも可)

8 I 「灰くまう II 「セく状態  
(完答)

2 1 a 属 さず  
b 敵意  
c 将来

2 I まった II 淡々と III 気に食  
3 A ウ B ア C イ  
(完答)

4 エ 5 どうくしい  
6 無言で目を見つめる  
(完答)

7 下位 8 いじめ 9 (記述題) 10 悠子がク 11 ア

1 コンテンツ産業の提供するサービスによって、豊かに過ごせるはずの余暇時間までもが、受動的に情報を受け取るだけで流れていってしまうこと。  
(同意可)

7 主観的な時間では当事者の状態や心理が問題になるから。  
(同意可)

2 9 周りを気にせずふるまい周囲から避けられている成瀬と近い人間だと思われないか心配したから。  
(同意可)

「配点」	
1	1
2	7
2	2
9	1
3	1
3	6
14	18
56	26
点	点

その他

①

- 1 a 「利息」は「借主から貸主へ支払う、元金に付帯したお金」のこと。「利子」もおおむね同じ意味で使える言葉なので、いずれも知っておこう。b 「対価」は、「対応する(見合った) 価値・価額(のもの)」のこと。c 「批判」は「非難」と似た言葉と感ずるかもしれないが、混同しないよう気をつけよう。
- 2 問いを理解することが難しいかもしれないが、諦めずに落ち着いて整理しよう。「モモ」が「現代の何か」と重なるので、それを答えるよう求めている。したがって、「『モモ』がどういう話か考える」↓「それに対応する現代の事柄を考える」↓「本文から探す」という作業に分解できる。ここで『モモ』は「本来自分のものであるはずの時間が他人に奪われる話」と言えるであろう。それに対応する現代の事象は「会社による搾取」・「コンテンツ産業による搾取」の二つが書かれていた。コンテンツ産業については、「時間泥棒」という言い方で表現されていたこともヒントになる。
- 3 I 問いの指示に合わせて、「……感覚」という内容であるはずであることは押さえてほしい。次段落の現代日本での例から探すことができる。  
II 問いの要求が「対照的な時間の過ごし方」なので、「他人に奪われてしまう」のではなく、「自分で使う」ということになるだろう。
- 4 問いかけに対しては答えを求めながら読むことになるが、次段落は時間を定義し直すところからスタートしているので、すぐに答えが出てくるというよりは論をたどった結論として出てくるであろうことが予想できる。最終的な筆者の「提案」が答えになるだろう。「この本で」という指定があるので、「積読」についてはなく、「再読」について答える。
- 5 本文通読時に対比を正確に押さえていたかどうか。客観と主観の対比は基本的なものである。確実に得点源にしたいところ。字数調整のために行ったり来たりする必要があるので、客観と主観の対比は基本的なものである。数値化についても対応している箇所を抜き出させる設問になっている。対比の理解のためには、要素の対応にも気を配ろう。
- 6 A 「にわか」は「急に、すぐに」の意。  
B 「ケム(煙)に巻く」は「要領を得ないことやでたらめを述べ立ててごまかすこと」。  
C 「ちまた」はここでは「世間」の意味。  
D 「防波堤」：知識問題として解決可能だが、「情報濁流」との語彙的な関連もおさえておきたい。
- 7 解く手順としては「これ」の内容をたしかめて、時間の話と主観の話のつながりを補うことになる。客観的な時間であれば、個人個人の捉え方は問題にならないが、主観的な時間では個人個人の状況や態度こそが問題になると書かれている。
- 8 問4でも筆者の主張を確認したが、そこに至る過程でエンデやショーペンハウアーの言説が大きく取り上げられていた。これらの関連性が問われている。ここでは当然、筆者の主張に沿った意見としてエンデやショーペンハウアーの話を持ち出している。あとは彼らの狙いを述べていた箇所を利用するとよい。

②

- 1 a 「属」は字形に注意して書いてほしい。b 「敵意」も字形に注意。「商」のようにならないよう慎重に書く。c 「将来」についても、字形のバランスまで気をつけて書こう。
- 2 「あかりちゃんと呼びかける者はいなくなり」、「こそこそ笑い合っている」ので、ネガティブな印象を持つていることがわかる。直前の段落にも、低学年から少しずつ上がるにつれて「気に食わなくなってきた」ということが書かれているので、この文脈で理解しよう。
- 3 A・Bはいわゆる語句学習で出会う外来語というよりも、文章や使用場面の中で注目すべき語彙であろう。耳にした(目にした)ときにたしかめておきたい。Cは故事成語。比較的有名なものなので、正しく理解しておきたい。
- 4 選択肢の文言が長い設問は、まず問いを正しく理解するよう努めて前後の文脈を確認し、その後を選択肢の検討に入ってから半分ずつ部分部分の正誤について本文に根拠を求めていく。直前の二文の流れを受けていると考えるとよいだろう。いずれも前後半に分割できるが、「戸惑い」・「一抹の喜び」をそれぞれ具体化している選択肢を選ぶ。要素の対応に気を配ろう。
- 5 「一抹の喜び」があり、「嫌がらせ」の共犯者になろうとしているのに、「助かった」というのは文脈にそぐわないように感じられるかもしれないが、そもそもこの事件の冒頭には「どう考えても断るのが正しいが、断ったら自分たちの立場が危うくなるのは目に見えている」とあり、いやいやながら従うしかないという力関係を念頭においておこう。
- 6 「凜華と鈴奈にも」ということは、ここより前に一度該当する行動を取っているはずである。
- 7 「わたし並みの」「平凡な」や「スカート丈も長く(＝目立つ格好ではなく)」、あるいは続く部分の「自分にはこういう子がお似合いなのだろう」・「見下して」などを総合して考える。
- 8 段落をまとまりとして読んでいると方針は立てやすい。「目立たず居心地のいいポジションを探りたい」が見つかり、これは◎の文にもあるし、はじめの話が書かれている箇所にも出てくるので、ここをたどるのがよいだろう。
- 9 この箇所での「……」はすぐに言い出すことをためらっていると解釈する。続く部分にも「わたしは今まで何を心配していたのかと拍子抜けする」とも書かれていた。
- 10 問いの要求に従って「想定する最悪の事態」に合うものを答える。「……可能性もあったのだ」という言い回しは要求に合致している。
- 11 直後の「完敗だ」や、その後の場面で「悪いのはわたしなのに」とあるので、このような関係の一時的な破局の原因が自分にあると考えていることがわかる。また、「立ち位置」というところから、クラスでのポジションニングについての話であることもわかるので、クラス内での序列についてふれた選択肢が望ましいといえる。